

〈三郷学の視点③〉

三郷学の視点

19. まちづくりにおける「ジョハリの窓」

人間関係では、自分を自分以外の人びとにどのように見せていくかということが重要なポイントとなります。自己の公開と自分以外の人びととのコミュニケーションの円滑な進め方について「ジョハリの窓」という考え方があります。

まちづくりにおいても、まちの魅力を市内外に広く知っていただくことが必要となります。「ジョハリの窓」の考え方が、三郷のまちづくりにも活かすことができそうです。

「開かれたまち」では、まちの魅力が人々を惹きつけ、まちの賑わいが増すことでしょう。「見えないまち」では、自分のまちの魅力に気づいていないため、魅力を活かしたまちづくりができなくなります。自分のまちの魅力に気づいていても、まちの魅力が外

部の人々に認知されていないと「隠されたまち」になります。「未知のまち」は、自分のまちの魅力に気づいておらず、外部にも知られていないため、来訪者もない状況になります。

「開かれたまち」の窓を大きくすることで、まちが賑わいます。そのためには、三郷のまちの資源(お宝)を発見し、磨き、発信していくことが必要となります。

まちづくりにおける「ジョハリの窓」

	自分のまちの魅力をわかっている	自分のまちの魅力をわかっていない
まちの魅力を外部に知られている	開かれたまち 「自分のまちの魅力に気づいており、外部からもまちの魅力を知られているまち」	見えないまち 「自分のまちの魅力に気づいていないものの、外部からは魅力を知られているまち」
まちの魅力を外部に知られていない	隠されたまち 「自分のまちの魅力に気づいているが、外部には、まちの魅力を知られていないまち」	未知のまち 「自分のまちの魅力に、自分でも気づいておらず、外部にも知られていないまち」

「見えないまち」「隠されたまち」「未知のまち」を「開かれたまち」にすることで、まちの賑わいが増す